

できごと

平成 29 年 11 月 6 日（月）7 日（火）に国立国会図書館国際子ども図書館で平成 29 年度「国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座一国際子ども図書館所蔵資料を使って」が開催されました。参加者は全国で児童サービスを担当している図書館員、児童書研究者、児童書出版関係者等です。今回は「絵本はアート、絵本はメディア」をテーマに、絵本の視覚表現性という視点から絵本に迫りました。絵本をメディアとして捉える意味や、美術的な視点からの絵本論

が紹介されました。（2ページ目にて、概要を紹介いたします。）（眞子）

11 月 6 日（月）、今年もグランシップを会場に「静岡県図書館大会」を開催しました。そのうち子どもの本に関する分科会として、口承文芸学者で小澤昔話研究所所長の小澤俊夫氏に「昔話絵本の選びかた～昔話の文法に沿って～」というテーマでお話しいただきました。（3ページ目にて、概要を紹介いたします。）（安田）

◇イベント情報◇

◆第 14 回レファレンス協同データベース事業フォーラム 中高生向けレファレンスサービスとレファ協

レファレンス協同データベース事業では平成 25 年度から学校図書館が参加対象に加わりました。今年度のフォーラムは中高生向けのレファレンスサービスに焦点を当て、公共図書館・学校図書館に関わる方々からの事例報告、パネルディスカッション形式による中高生向けレファレンスサービスへのレファ協活用についての検討を行います。

会場：国立国会図書館国際子ども図書館アーチ棟 研修室 1

所在地：東京都台東区上野公園 12-49

日時：平成 29 年 12 月 14 日（木）
13 時～17 時 45 分

対象：図書館員、図書館情報学専攻の教員及び学生、その他関心のある方

会費：無料

申込：お申込みはウェブフォームからお願いいたします。締切は 12 月 6 日（水）まで。

http://crd.ndl.go.jp/jp/library/forum_14.html

その他：国際子ども図書館見学会を行います。

定員 60 名、先着順。

時間は 10 時 30 分～12 時です。

◇イベント情報◇

◆鈴木まもる講演会「絵本と鳥の巣の不思議～鳥の巣が教えてくれること～」

「鳥の巣」や子ども向けの絵本などを書き、全国各地で「鳥の巣展」を開催している、鈴木まもる先生の講演会です。

会場：伊東市生涯学習センター中央会館
4 階 第一会議室

所在地：伊東市音無町 5-14

日時：平成 30 年 2 月 10 日（土）
13 時 30 分～15 時 30 分

対象：子どもから大人まで

会費：無料

定員：80 名程度

申込：不要

問合せ：伊東市立伊東図書館

（電話：0557-36-7433）

その他：鈴木まもる先生の本を持参すると、イベント終了後、本にサインをいたします。

児童文学連続講座 「絵本というメディアの可能性」

平成29年度の国際子ども図書館児童文学連続講座は、美術的な視点から考える絵本論が紹介されました。講師は石井光恵氏（日本女子大学教授）、中川素子氏（文教大学名誉教授）、今井良朗氏（武蔵野美術大学名誉教授）、松本猛氏（絵本学会会長、ちひろ美術館常任顧問、横浜美術大学客員教授）の4名です。その中から、松本氏による講義「絵本というメディアの可能性」について報告します。

子どものための本だと思われている絵本ですが、その歴史を遡ると古代エジプトの死者の書、日本では絵巻物などがあり、決して子どもだけのものではありませんでした。美術は物語と一体化して発展し、情報を絵で伝えることで今の雑誌やテレビなどのマスメディアの役割をしていたのです。「絵本=子どものためのもの」という考え方は、子どもの権利が確立され、子どもへの教育が意識されるようになってから生まれました。日本ではこの半世紀で読み聞かせの習慣が定着しました。背景には第二次ベビーブームがあり、絵本出版が事業として成り立ったこと、教育との結びつきが強くなったことで、絵本の普及につながりました。

発達心理学の面からも絵本の研究がされています。同じものを見ておもしろさや楽しさを共有する〈共同注意〉、絵を指さして名前を言い、次第に語彙を広げる〈命名ゲーム〉、同じ絵本を繰り返し読んで得られる〈予測確認の喜び〉などがあります。いずれも、絵本を通して生まれる子どもと大人とのやりとりの中で生まれています。発達心理においては絵本のクオリティーは特に意味を持たないとも言われているようですが、子どもが何度も読んでもらったがる絵本は、自然と繰り返し読まれてきたクオリティーの高いものになるそうです。

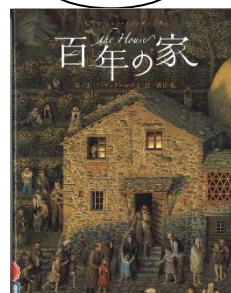
絵本をメディアという視点からみてみると、情報伝達能力が非常に高いことがわかります。その一つの例に歴史絵本があげられます。『絵で見る日本の歴史』（西村繁男／作 福音館書店）は、見開きの絵の下に文章が一行あるだけです。歴史考証が行き届いた絵は、文だけでなく絵で語らせることに成功しています。文字で書くと大量のページを要する情報も、絵で描くと少ないページで深い情報を伝えることも可能です。視覚的イメージには文字だけではわからないことも理解させる力があるのです。

科学絵本のように知識を読み取ることできる絵本もありますし、科学絵本と謳っていない絵本でも科学的な情報を得ることができるものもあります。『14ひきのあさごはん』（いわむらかずお／作 童心社）は、背景に作者の住んでいる栃木県の初夏の自然が描かれており、自然観察をすることもできる絵本です。

現代の絵本は、文字情報中心のメディアとは違う、視覚情報を活用したメディアとして表現の幅を広げているそうです。講義は「絵を読む」ということを知り、絵本を楽しむヒントをあたえてもらいたいという講師の言葉で締められました。絵本をメディアとしてみると、正しい情報を元に絵本が出版されることを願うとともに、私たちが正しい情報が描かれたものをきちんと選ぶ必要性も感じました。

所蔵資料から

絵本



『百年の家』

パトリック・ルイス／絵

J.パトリック・ルイス／作

長田弘／訳

講談社 2010年

「歴史絵本」の一つとして紹介されました。絵を読むこと

で時代がわかると同時に、ストーリーに合わせた季節も選ばれています。（眞子）

静岡県図書館大会 第2分科会 幼児・児童に対するサービス報告

今 年度は、口承文芸学者で小澤昔話研究所所長の小澤俊夫氏に「昔話絵本の選びかた～昔話の文法に沿って～」というテーマでお話しいただきました。一部をご紹介します。



昔 話はどこにある？—昔話は本の中にある、と思う人が多いかもしれないが、昔話は「昔話が語られている間だけ存在」し、終わったら消えてしまうもの。耳で聞く語りの文章で、本で読む文章とは違う。語りは本のように読み直したり、一カ所に留まり考えることができない。このため、昔話は耳で聞いて分かるように単純明快な文章で語られ伝わってきた。今の語り手は本に書かれた昔話を覚えて語ることが多い。本の中の文章も、単純明快でなければ昔話は伝わっていかない。昔話の絵本を選ぶ際は、昔話を良く知り、昔話とは何かをちゃんと勉強することが何よりも大切。昔話が語られるとき、子ども達は「耳で聞いた言葉を絵に変換して思い浮かべる」というとても大切な力を養う。耳で聞いて理解するために、昔話には一種独特の法則（文法）があり、本もそれに則ったものを選んで欲しい。



講 演では、小澤氏により「馬方とやまんば」（『日本の昔話5』福音館書店 1995年）が語られました。この語りを例にしてお話しされた、昔話のもつ文法についていくつかをご紹介します。

「昔話は主人公や重要な人物を孤立的に語る。」—昔話の場面は常に1対1で構成され、登場人物が一度に何人も出てくるということはない。シンプルで分かり易い構造になっている。

「昔話は図形的に語る。」—「馬方とやまんば」では馬の足を切る場面があるが、馬が痛がるなど、リアルな描写はない。昔話は残酷だが残虐には語らない。また、足を切った馬が走ることがで

きるのは、昔話は切り紙細工のように図形的に語られるため。

「昔話は同じ場面を同じ言葉で語る。」—同じ言葉で繰り返すのは耳で聞く時にわかりやすいから。また、子どもは気に入った本を何度でも読みたがるように、既に知っているものとまた出会いたがっている。これは、子どもが自分の魂の安定を求めているのではないか。安らぎを求める子ども達の気持ちを大切にしてほしい。



ま た、昔話は何を伝えているのかについて「白雪姫」や「シンデレラ」などを例示されながらお話をされました。

昔話は何を伝えているのか？—道徳や教訓を伝えていると思われがちだが、本来は若者が成長・変化していく話が多い。昔話は「強く生きろ」というメッセージを持ち、子どもの成長のする姿、人間と自然とのつきあい方、命とは何か、を伝えている。昔話は個人が忘れてしまったことを全体の記憶として覚えてくれている集合的記憶であり、知恵の蓄積。だからこそ大切である。

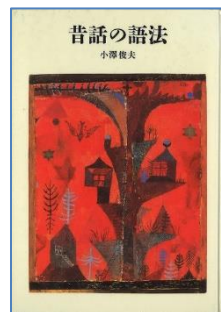


最 後に、『おおきなかぶ』、『てぶくろ』（ともに福音館書店）などの絵本の特徴も紹介されました。興味を持たれた方は、是非小澤氏の著書をお読みください。

所蔵資料から

知識

『昔話の語法』
小澤 俊夫／著
福音館書店
1999年



「昔話は口で語り、耳で聞かれて伝えられてきたために、独特の『語法』をもっている」。耳で聞いてわかりやすく伝えられてきたからこそ生き残ってきた昔話について、本来の姿が変えられることなく、次の世代にも伝えていけるようまとめられた研究書。（安田）



知識

『みつけたよ!
だんごむし』
ひさかたチャイルド
2017年5月

子どもに身近な虫、ダンゴムシの生態について楽しく学べる写真絵本。アリに襲われたとき体を丸くする様子や、赤ちゃんダンゴムシが大きくなるまでの様子、好きな食べ物と嫌いな食べ物など、豊富な知識が見やすい写真と文章で丁寧に解説されている。文章はすべてひらがなとカタカナで書かれているため、低学年生は自分で読むことができ、幼児であれば大人が読んであげることで楽しめる。監修は鳥取大学教授による。【小学校低学年から】(仲本)



絵本

『ちいさなかえるくん』
甲斐 信枝/さく
福音館書店
2017年5月

おなかをぺこぺこの、ちいさなかえるくん。ごちそうを捕まえようと、たんぽぽの花畑でちょうちょに飛びかかるが逃げられてしまう。れんげ畑でちょうちょやてんとうむしを捕まえようとすると、怖いくまんばちがいて近づけない。くもを捕まえようと追いかければ、へびが現れて危機一髪。しかし最後には、かえるくんもおいしいごちそうにありつける。昆虫たちの写実的でありながら愛らしい絵が楽しめる科学絵本。植物の描写もいきいきとして魅力的。

【3、4歳から】(仲本)



文学

『ポケットのはらうた』
くどう なおこ/詩
ほてはま たかし/画
童話屋
2017年5月

へびいちのすけ「あいさつ」、たんぽぽはるか「ねがいごと」など、「のはらむら」に住む詩人たちの詩集「のはらうた」の最終巻。第1作『のはらうた』の刊行から33年、既刊シリーズから子どもたちに人気の作品26編を選んだ。版画で描かれたカラー挿絵がにぎやかであたたかい「のはらみんな」の様子を伝える。サイズが小さいため大人数への読み聞かせには向かないが、少人数で挿絵を見ながら、大人数へは朗読などをすれば、幼い子からも楽しめる。声に出すとより楽しい。【4、5歳から】(眞子)



絵本

『ほね、ほね、
きょうりゅうのほね』
バイロン・バートン/
さく
かけがわ やすこ/
やく
ポプラ社
2017年6月

恐竜の骨(化石)を探して掘り出して、元のとりの骨格に組み立てて博物館に飾るというストーリー。

単純で短い言葉で作られたリズムカルな文章と明るい色彩で表現された絵が、骨を探して歩く一行の様子をコミカルに表している。そして、徐々に形作られる恐竜の姿にわくわくさせられる。恐竜好きの子でなくても楽しめる。

1992年佑学社より発行され、その後、1998年インターコミュニケーションズより発行された作品の復刊。【幼児から】(青山)